

貯法	気密容器、室温保存
----	-----------

## 内部・外部寄生虫駆除剤 犬・猫用

要指示医薬品 指定医薬品



# エビクト® 6%

## EVICTO®

## 【成分及び分量】

品名		エビクト 6%
有効成分		セラメクチン
含量	0.25mLピペット	本品1ピペット中 15mg
	0.75mLピペット	本品1ピペット中 45mg

## 【効能又は効果】

犬:犬糸状虫の寄生予防

ノミ成虫の駆除

ノミ卵の孵化阻害及び殺幼虫作用によるノミ寄生予防

ミミヒゼンダニの駆除

猫:犬糸状虫の寄生予防

ノミ成虫の駆除

ノミ卵の孵化阻害及び殺幼虫作用によるノミ寄生予防

ミミヒゼンダニの駆除

回虫の駆除

## 【用法及び用量】

体重1kgあたりセラメクチン6mgを基準量とした以下の投与量を肩甲骨前方の背面部皮膚に滴下する。

複数の効能に対し同時期に、本剤を適用する場合、投与頻度が月1回を超えないよう注意すること。

	体重	用法及び用量
犬	2.5kg未満	0.25mLピペット 1個全量 犬糸状虫の寄生予防:毎月1回、1か月間隔で蚊の活動開始後1か月以内から活動終了後1か月以内まで投与する。 ノミ及びミミヒゼンダニの駆除:1回投与する。 ノミ卵の孵化阻害及び殺幼虫作用によるノミ寄生予防:ノミの発生状況に応じて1か月間隔で1回投与する。
	2.5kg以上 7.5kg未満	0.75mLピペット 1個全量 犬糸状虫の寄生予防:毎月1回、1か月間隔で蚊の活動開始後1か月以内から活動終了後1か月以内まで投与する。 ノミ、ミミヒゼンダニ及び回虫の駆除:1回投与する。 ノミ卵の孵化阻害及び殺幼虫作用によるノミ寄生予防:ノミの発生状況に応じて1か月間隔で1回投与する。
猫	7.5kg以上	セラメクチン 6mg/kgを 基準量とした 適切なピペットの 組み合わせ

## 【使用上の注意】

## (基本的事項)

## 1.守らなければならないこと

## (一般的注意)

- ・本剤は、要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
- ・本剤は、効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
- ・本剤は、定められた用法・用量を厳守すること。

## (使用者に対する注意)

- ・本剤投与後、完全に乾くまで投与部位に触れないこと。また、投与したことを知らない人も触れないように注意すること。特に小児が、投与した犬又は猫に触れないように注意すること。

## (犬及び猫に関する注意)

- ・投与部位の皮膚に異常が無く、被毛及び皮膚がぬれていないことを確認した後、投与すること。
- ・本剤投与後は乾燥するまで投与部位を犬又は猫に舐めさせないよう注意すること。
- ・投与後2時間以内は水浴び等をさせないこと。

## (取扱い及び廃棄のための注意)

- ・本剤を火気に近づけないこと。
- ・小児の手の届かないところに保管すること。
- ・食品と区別し保管すること。
- ・本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- ・使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。

## 2.使用に際して気を付けること

## (使用者に対する注意)

- ・本剤が人の皮膚に付着した場合は石鹸及び水で洗浄すること。万一、目に入った場合は、水で十分洗浄すること。皮膚または目に刺激が残る場合は、医師の診察を受けること。

## (犬及び猫に関する注意)

- ・副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

## (取扱いに関する注意)

- ・開封後は速やかに使い切ること。

## (専門的事項)

## ①対象動物の使用制限等

- ・犬及び猫以外の動物には使用しないこと。
- ・6週齢未満の犬及び猫には用いないこと。

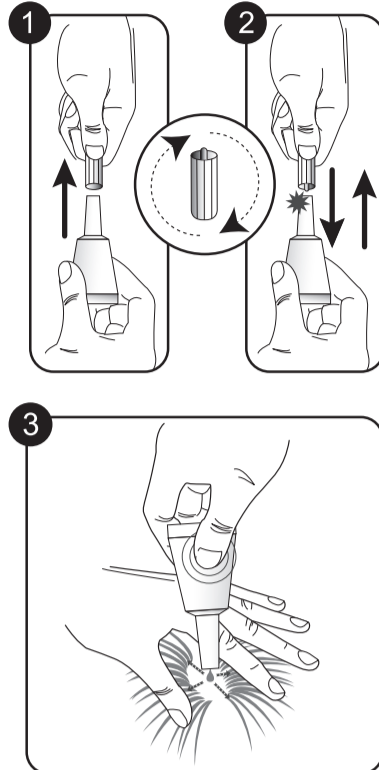
## ②重要な基本的注意

- ・本剤投与前に犬糸状虫寄生の有無を検査等により判定すること。犬糸状虫寄生が疑われる猫には慎重に投与すること。検査陽性犬には、成虫及びマイクロフィラリアを駆除するなど適切な処置を行い投与すること。
- ・ミミヒゼンダニについては、投与1か月後に十分な効果が得られない場合は再投与することが望ましい。
- ・複数飼育の環境下にある犬あるいは猫に対しノミの駆除を目的とする場合、全頭に投与することが望ましい。
- ・本剤は犬糸状虫の成虫に対し駆虫効果はない。
- ・本剤は1回投与すると通常約1か月間新規のノミ寄生を防御する。
- ・複数の効能に対し同時期に、本剤を適用する場合、投与頻度が月1回を超えないよう注意すること。
- ・アベルメクチン系薬剤において、コリー犬及びその系統の犬種に対し、経口投与した場合、神経毒性を示すおそれがあるという報告がある。

## ③副作用

- ・犬において本剤投与後、一過性の元気消失あるいは軽度な掻痒感がみられることがある。
- ・猫において本剤投与後、ときに投与部位に一過性の脱毛が現れることがある。
- ・猫では経口的に摂取した場合、嘔吐あるいは流涎がみられることがある。

## 【使用法】



- ①キャップをピペットから外します。
- ②キャップを逆さまにして、ピペットの先端に押し込み、穴を開けます。

- ③穴が開いたらキャップを外し、動物の肩甲骨前方の背面部の被毛を分けて、ピペット薬液を皮膚に直接滴下します。ピペットを絞り、全充填量が滴下されるようにピペット内の薬液を出し切ってください。

## 【包装】

- 1箱:0.25mL / ピペット×4本入(アルミ包装封入)
- 0.75mL / ピペット×4本入(アルミ包装封入)

## 【製品情報お問い合わせ先】

日本ビルバック株式会社

TEL.0120-550-700

## 【製造販売業者】

日本ビルバック株式会社

〒611-0041 京都府宇治市横島町二十四16番地



添付文書情報はこちら

<https://www.vm.nval.jp/public/detail/18972>